

## 基礎経済科学研究所 自由大学院

大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

[第870回ゼミ報告] 2023年12月22日号

年末に政界が大揺れ：政権のパーティ(Party=政党)が、パーティ(Party=宴会=派閥パーティ)の裏金(Cashback=現金払い戻し)：なんとも情けない  
12月13日のゼミは、柄谷行人『力と交換様式』の第3部「資本主義の科学」の第2章「資本=ネーション=国家」を川口さんの報告で行いました。マルクスは国家の揚棄から支配階級の装置・道具説をとり、直接論じないが、エンゲルスは社会主義の段階での国家を論じる。カントの平和連合で、自然が人間に永遠平和を保障しているという。しかし「ネーション」は国家と異なり観念的力となる。ヨーロッパでは1848年革命を経て、資本=ネーション=国家が出現し、交換様式A=B=Cの出現で相互に助け合い存続する。マルクスはまず商人資本を重視し産業資本をその延長とみて、共に差異を利潤に転じて増殖させ、資本は根本的に商人資本的である。資本制経済の飛躍的發展により、差異を時間的に創出する産業資本が産業革命を起こす。第1次産業革命が石炭・蒸気機関、第2次産業革命が電気・石油、第三次産業革命がコンピューターである。資本の価値増殖は物の生産自体ではなく差異化であり、資本が追及するのは「差異」=「無形」であり、その推進力が「物神」にある。産業資本での生産だけでなく運輸・場所変更にも差異をみる。討論では、マルクスは国家を定義していないが、エンゲルスは定義している。しかし、隅田聡一郎の『国家に抗するマルクス「政治の他律性」について』によると、マルクスとエンゲルスは初期に国家を論じ、近年のMEGA研究により、後期でもマルクスは論じている、と。カントの平和論で、移動の自由・歓待の権利を述べている。有形・無形との関係は、差異の量と質の問題でもあり、また物質と表現とも。ここに商人資本を持ってきている。柄谷による宇野理論解釈。言語とは物につかれた意識である。マルクス・エンゲルス：MEを一体として考え論じるのか。マルクスは政治の他律性をみるが、そこには資本の論理との組み合わせを見ている。アメリカのロビー活動。会場参加は川口さん・山口さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・後藤さんの6名でした。

\* 12月27日(第4週)ゼミも、午後5時半(or 45分)から8時です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 891 5097 4111 パスコード: 271473

\* 12月27日のレーニン『帝国主義論』の報告者は、事情により小野さんから高田に変更し、2章「銀行とその新しい役割」のみとなります

\*\*\*\*\* ゼミ日程 \*\*\*\*\*

12月27日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

レーニン『帝国主義論』2.銀行とその新しい役割 報告・高田

1月10日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

柄谷行人『力と交換様式』第3部3章 資本主義の終わり 報告竹内さん

1月24日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋

レーニン『帝国主義論』3.金融資本と金融寡頭制 報告者未定

その後 2024/ 2/14, 2/28, 3/13, 3/27 [アイクルの部屋]

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755

HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso